

交通安全情報

令和7年6月20日
牧之原警察署



体調管理に 気をつけて

～運転中に身体の異変を感じたら～

気温が高くなると、暑さからくる集中力の欠如、疲労などを原因とする交通事故が懸念されます。

また運転中や路上での熱中症の発症は、重大な事故につながる危険性があります。

体調がすぐれない時には、運転や外出を控えるなど、交通事故防止に努めましょう。

「何かおかしいと、感じたら」

胸の痛み・頭痛・手足の痺れや不自由・胸焼けのような上腹部の不快感や吐き気など



病気の
前兆かも



すぐに安全な場所へ車を止めましょう

停車後、サイドブレーキを掛け、ハザードランプを点灯する等の安全措置をとり、症状が改善しない場合は

- ・救急車を呼ぶ
- ・周りの人に助けを求める（窓を開けて手を振る等）など、事故防止に努めましょう。



暑さ指数と熱中症

暑さ指数（WBGT）とは、熱中症に関連する、気温、湿度、日射等の要素を取り入れた指標であり、熱中症予防の目安として用いられています。

最新情報は環境省のホームページ等を確認して下さい

暑さ指数 (WBGT)		日常生活における注意事項
31℃～	危険	外出はなるべく避け、涼しい室内に移動。
28～31℃	厳重警戒	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
25～28℃	警戒	運動や激しい作業をする際は、定期的に十分な休息を取り入れる。
21～25℃	注意	一般に危険性は少ないが、激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

車内でも熱中症の危険があります！

運動・作業後は休息が必要です！

炎天下では、車内が日光にさらされ、車内温度が高くなりがちです。車内でも熱中症にかかる可能性があるので、あらかじめ十分な水分補給をしておくとともに、カーエアコンを使用するなど、快適な車内温度を保ってね！



お子さまを車内に残したまま車を離れることは、大変危険な行為です！

過労運転等の禁止（道交法66条）

何人も、過労・病気等の影響により、正常な運転ができないおそれがある状態で車両等を運転してはならない。

(確定値)	令和7年5月末の人身事故件数			
		死者数	負傷者数	高齢者事故
静岡県内	6,499	31	8,098	2,527
	(-766)	(+2)	(-1040)	(-247)
牧之原署	76	1	99	37
	(-28)	(+1)	(-43)	(-5)
牧之原市	38	1	53	19
	(-22)	(+1)	(-29)	(-7)
吉田町	38	0	46	18
	(-6)	(±0)	(-14)	(+2)